一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

令和6年度第9回 理事会議事録

日時：令和 6 年 10 月 17 日(木)12：45-14:30
場所：新宿住友スカイルーム　Room4

【出席した理事】相澤俊峰、今釜史郎、川口善治、國府田正雄、須田浩太*、高橋寛、永島英樹、中村雅也、
播广谷勝三*、藤原靖*、細金直文、宮腰尚久、吉井俊貴、渡辺雅彦
【出席した監事】岩﨑幹季*、前田健*　　*はオンライン出席

【議事の経過の要領及びその結果】
理事長・中村雅也が議長となり、開会を宣して議事に入った。

1. 審議・決議事項
①.　令和6年度第8回理事会議事録の確認
修正等ある場合は事務局へ一報する。

②. 脊椎脊髄外科指導医規程の改定について(指導医制度委員会)
資格申請に必要な頚椎前方固定術の症例数が10例に変更されたことに伴い、認定脊椎脊髄外科指導医規程を修正する案が提示され、一同検討の結果、承認した。

③.　海外学会との連携などについて(国際委員会)
1)　Ganga Hospitalから提案されたVisiting Professorshipについて
学会からの募集は行わないが、学会NLに依頼状を掲載することで会員に周知し、興味のある会員から申し出があれば委員会が仲介することが提案された。一同検討の結果、承認した。
2)　Nepal Himalayan Spine Seminarについて
第10回Himalayan Spine Seminar (2024年11月15日-16日: ネパール、カトマンズ)で、JSSR Symposiumが予定されている。事前連絡はなかったが、開催日が迫っているので学会NLで周知する。一同検討の結果、承認した。
3)　2025 ATF, ETF, VSP の公募について
例年通り2024年10月中に募集を開始する予定で、45歳以下の会員を対象としていることが報告された。ATFとETFの２つのfellowshipは、時期をずらせば両方に応募を可とすることが提案された。過去の参加歴などを考慮して検討する方針が示されたことから、一同検討の結果、承認した。
4)　2025 APSS-APPOS-MSS シンポジウム企画、Women in Spine企画について
APSSから依頼のあった２つの企画は国際委員会で人選を行いたいと説明があり、一同検討の結果、承認した。

④. 9 月の入退会について（メンバーシップ・コンプライアンス委員会）
委員会では全員承認であった旨報告があり、一同検討の結果、承認した。

⑤.　有害事象周知に関する内規について（新技術評価検証委員会）
今後有害事象が報告されたときに、学会としてどこまで関与、周知するかの基準を定めた内規を定めることが提案さ

れ、その内容の説明があった。一同検討の結果、文章の修正は必要だが、内規を定めることは承認した。

⑥. 大正Award選考委員について(事務局)
次回の大正Award選考委員候補が提示され、一同検討の結果、承認した。

⑦. JSSR関連Awardセッションについて(事務局)
第53回学術集会(渡辺雅彦大会長)からこのセッションの枠を設けた。複数の役員からタイトなスケジュールではあったが、受賞者にとっても学会にとっても有意義であったという意見があり、今後も踏襲することを承認した。

⑧. その他
・APSS Basic Course 2025の日本での開催に関して(国際委員会)
各国持ち回りで開催しているこのコースを2025年に日本で担当してほしいとAPSSから依頼があったとして開催可否について審議依頼があった。一同検討の結果、承認した。なお、詳細については委員会で検討し、理事会への報告を求めることとした。
・理事・評議員施設におけるJSSR-DB術前リスク因子の入力に関して(データベース委員会)
JSSR‐DBのリスクカリキュレータ作成のため、術前リスク因子のデータ蓄積が必要となることから、理事・評議員の施設において項目入力を開始したいと提案があった。様々な意見を検討し、一同承認した。
・第58回学術集会開催会場について(学術集会プロジェクト等検討委員会)
宮腰会長から会場候補地として仙台国際センターが提案され、委員会で検討した結果、問題ないと判断したと報告があった。現在８か所設定されている学術集会開催会場には仙台は含まれていないが、当時の会議録には、「8か所でスタートするが、今後、開催のできる可能性がある会場がでてくれば、その時にまた検討する」と残っていることが報告された。一同検討の結果、承認し、今後の開催会場については引き続き検討していくこととした。
・製品供給不安定のリスクについて_学会としての見解書(中村理事長)
ニューベイシブジャパン及びグローバスメディカルが統合して製造販売していた製品について、届出書の不備が見つかったため、市場から回収される可能性があるとして、厚生労働省へ見解を述べたいと資料が提示された。様々な意見があったが、学会としての見解を要望書として提出することは承認された。内容については議論を基に修正し、E理事会に諮り確定することとした。

2. 審議・報告事項
①. TWSSの招待について（中村理事長）
2025年のTWSSから理事長として招待を受けており、さらに5名の派遣推薦依頼があった。国際委員会に候補者選定を依頼していることが報告された。

②. 脊椎内視鏡検討委員会報告
脊椎内視鏡検討委員会と社会保険等システム検討委員会で、新たな保険術式収載にむけて腰椎固定術（PETLIF, MELIF, UBELIF等）の呼称統一と、社保委員会に提出する50症例のデータ収集について議論の場を設けたことが報告された。また、UBEやBESSなど新規脊椎内視鏡技術の技術認定医制度について日整会が取り組んでおり、あと1年程度でモニタリング施設やプロクターが選出されるだろうと報告された。

③. 社会保険等システム検討委員会報告
脊椎内視鏡検討委員会の報告と同じく、令和8年度診療報酬改定に向けて内視鏡を用いた腰椎椎体間固定術の名称について検討したことが報告された。

④. プロジェクト委員会報告

今期は現在進行中のプロジェクトに注力している。プロジェクト数が２桁になると制御できなくなるので、新規プロジェクトを積極的に導入していくために2年毎にプロジェクトを大きく入れ替えていく方針が報告された。

⑤. 椎間板内新規治療法の実態調査について(國府田理事)

前回問題提起された椎間板治療法の調査結果について、國府田理事から報告があった。理事長から、国民から見てもわかりやすく、安心して健全な医療を選択できるような評価体系を作るために、日整会と一緒にアクションを起こし、JSSRが先導していきたいと発言があった。

⑥. 第99回日本整形外科学会学術総会シンポジウム提案について(事務局)

事務局から、日整会総会のシンポジウム案を検討するよう依頼があった。

⑦. 学会主導研究セッションについて(事務局)

第54回学術集会での学会主導研究セッションを希望する委員会について確認があった。学術集会プログラム等検討委員会から、専門医制度の枠を設ける予定であるとの報告があった。ほかの委員会にも検討を依頼し、後日事務局と学術集会運営事務局で調整して報告をすることを確認した。

・次回の理事会開催日：11月18日（月）14：00-16：00(web)

以上

令和6年10月17日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 中村雅也

監事 岩崎幹季

監事 前田 健